



Ⅵ. 国際連携

センターでは、海外の大学教育の研究開発組織や研究者・実践者との交流・共同研究を進め、そのプロセスや成果をシンポジウム、研究会、書籍などで公開しています。

1. 国際シンポジウム:「MOOCは大学教育をどのように進化させるのか」

12月9日14時45分より、京都大学芝蘭会館稲盛ホールにて、国際シンポジウム“How MOOC Evolves University Education”(MOOCは大学教育をどのように進化させるのか)を開催しました。このシンポジウムの直前、13時から14時30分までは、山極総長が講師を務めるMOOC「Evolution of the Human Sociality」と連動した受講者参加型のイベント President's MOOC "Evolution of the Human Sociality" Live! が稲盛ホールの隣に位置する山内ホールにおいて開催され(本報告書20頁を参照)、それに引き続いての開催となりました。

シンポジウムの参加者の多くは、総長MOOCイベントの開始時から参集し、シンポジウム会場内でUstream配信されたイベントの様子を観覧していました。

シンポジウムは、イベントを終えたばかりの山極総長による挨拶から始まりました。なぜMOOCを始めようと思ったのかという動機や、講義担当者としてのご経験をお話しいただくとともに、こうした取り組みが京都大学の教育の質の向上につながることへの期待も述べられました。

次に、基調講演者として、edXの教育サービス部門のVice Presidentであるキャシー・ピュー(Kathy Pugh)氏をお迎えし、MOOCを巡る世界の最新の動向や試みについてお話しいただきました。

パネルディスカッションは、京都大学においてMOOC制作に関わる以下の5人の教員の話題提供から始まりました。

KyotoUxの現状

酒井 博之(高等教育研究開発推進センター准教授)

"Introduction to Statistical Methods for Gene Mapping" について

山田 亮(医学研究科教授)

"Fun with Prime Numbers: The Mysterious World of Mathematics" について

伊藤 哲史(理学研究科准教授)

"Culture of Services: New Perspective to Customer Relations" について

山内 裕(経営管理大学院准教授)

受講生アンケートと学習データの分析

田口 真奈(高等教育研究開発推進センター准教授)

これらの話題提供により、京都大学におけるMOOCの取組の概要、実践事例の紹介、データ分析の結果を踏まえた上で、フロアを交えて今後の展望と期待に関する意見交換が行われました。

参加者からのアンケート結果では、研究会の有意義度は5段階評価の4.41と非常に高く、今後もこうした研究会の開催を希望する声が寄せられました。

(田口 真奈・松下 佳代)



2. 国際会議への参加

MOOCの設計・運営・評価についてはMOOCの国際コンソーシアムであるedXと緊密な連携をとっており、積極的に関連学会や研究会に参加しています。

今年度は以下の国際会議において、世界の先端情報の収集につとめるとともに、講演や報告を通して情報発信も行いました。

会議名称 Asian e-Table 2015: Learning is E-learning (APRU会議)
(<http://tl.hku.hk/asian-etable/>)

期間・場所 5月18～19日、香港大学

講演 "Gamification in E-learning" (飯吉 透)

会議名称 The 2nd Symposium on Teaching and Learning in East Asian Research Universities (AEARU会議)
(<http://www.aearu.org/>)

期間・場所 5月21～22日、南京大学

講演 "Advancing Institutional Agenda on Learning and Teaching by Harnessing Open Educational Innovation and Improvement" (飯吉 透)

会議名称 Learning with MOOCs II – 2015
(<http://www.learningwithmoocs.org/>)

期間・場所 10月2～3日、コロンビア大学

参加者 酒井 博之・後藤 崇志



会議名称 edX Global Forum
(<http://futureedu.edx.org/>)

期間・場所 11月8～10日、フェアモント ワシントンD.C.

参加者 飯吉 透・土佐 尚子・酒井 博之
Isanka Wijerathne・河合 道雄

パネルディスカッション "Reality Check: Where Have We Been?"

パネリスト 飯吉 透(京都大学)
Daniel Seaton氏(ハーバード大学)
Ted Dodds氏(コーネル大学)



会議名称 Open Education Conference
(<http://openedconference.org/2015/>)

期間・場所 11月18～20日、フェアモントホテル バンクーバー

参加者 飯吉 透

(酒井 博之)